



横浜なみきりハビリテーション病院 広報誌

～ 頼り頼られる病院を目指して～

あ と り



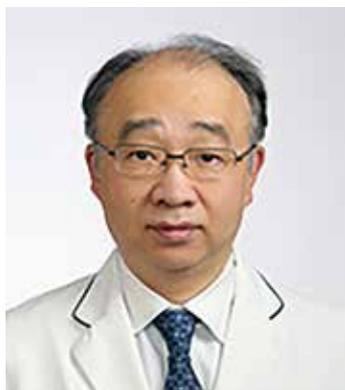
contents

- ◆ 院長あいさつ ～ 創刊にあたって～
「あとり」とは
- ◆ 並木の地にいたるまでの来歴
- ◆ 特集 リハビリスタッフの1日



院長挨拶

医療法人社団協友会
横浜なみきリハビリテーション病院
院長 神経内科 阿部 仁紀



～創刊にあたって～

広報誌の創刊にあたりまして、当院の枠組みを説明いたします。当院は3重の「入れ子」構造（ロシアの民芸品マトリョーシカ人形の構造；大きなマトリョーシカ人形をとると、小さなマトリョーシカ人形が出てきて、その小さなマトリョーシカ人形を取るとまたそれより小さなマトリョーシカ人形が出てくる構造）になっております。一番大きなマトリョーシカは中央医科グループ（Central Medical System；CMS）です。その一番大きなマトリョーシカをとると、3つのマトリョーシカが出てきます。IMS（Itabashi Medical System 板橋中央総合病院グループ）、TMG（Toda Medical Group 戸田中央医科グループ）、そしてAMG（Ageo Medical Group 上尾中央医科グループ）です。そのうちの一つAMGを取ると、27病院のうちの1つに当院がある。といった構造です。この構造を理解すると院外の方々も色々と便利な点が出てくると思われます。まず、理念です。AMGの理念の「愛し愛される病院」は、IMS、TMG、AMG共通の理念、つまりCMSの理念でもあります。また「くたかけ」という広報誌があります。AMGのグループ内広報誌「くたかけ」とは内容は異なりますがTMGでもグループ内広報誌「くたかけ」があります。

「あとり」に関しましては、広報誌創刊にあたり、院内で名前の公募をいたしました。43件の応募があり、私、事務長、看護部長の3役で決定いたしました。決定にあたっては、3役の共通認識に「くたかけ」があったことが選択理由の一つになりました。「くたかけ」ってなに。というのがたいていの方々の印象でしょう。それで、「くたかけ」を手にとると、「くたかけ」とは鶉の古名です。さわやかな暁にときを告げる一番鶉の声…それは我々に希望、力、勤勉、和、愛 等々幾多の事を教えようとしているのかもしれない。」という文が書かれております。同じように、「あとり」ってなに、といいますと「あとり（花鶉、学名：Fringilla montifringillia）は鳥綱スズメ目アトリ科アトリ属に分類される鳥類の一種である。日本人が最も古くから認識していた鳥の一つで、奈良時代から大群をつくる鳥としてよく知られていた。ユーラシア大陸の亜寒帯針葉樹林で広く繁殖し、日本には冬鳥として毎年10月頃、数万羽の群れでやってくる。だから「集団の鳥」→「集鳥＝あつとり」から「あとり」と呼ばれるようになったと言われている。（「森と水の郷あきた」ホームページより）」あとり（花鶉）の鳴き声はYouTubeでBrambling Singingとすると聞くことができます。

「くたかけ」と「あとり」、なんとなく無意味な音に意味がある。この関係性が選択の一つの理由となりました。もちろん、関係性だけではなく、その意味（最後の文にまとめました）も加味しました。一方、「あとり」を考えた職員（命名者）もおそらく「くたかけ」から連想したと思われ、無意識に我々3役の選択基準を作ったという意味で、選ばれたのは偶然ではなく必然であったと思われれます。

私たちは地域に根差す医療従事者として、たくさんの患者様、ご家族様、医療・介護・福祉関係者の方々と密接に寄り添いお互いに助け合っていくことを願って「あとり」を創刊いたしました。「あとり」の「り」には、繰り返しのre-（再び）の意味も込められています。この広報誌が、リハビリの取り組んでいる方々が再び（re-）第二の人生へ踏み出す一助となれば幸いです。

横浜なみきりハビリテーション病院 ～ 並木の地にいたるまでの来歴～

私たち横浜なみきりハビリテーション病院の歩みは、前身である屏風ヶ浦病院から始まりました。屏風ヶ浦病院は昭和61年4月に一般的な総合病院として167床で開院しました。しかし、平成16年に回復期リハビリテーション病棟42床に始まり、平成20年に87床へ増床、加えて障害者病棟80床へと移行する中で総合病院としての骨格で機能を果たしていくのが困難となりました。

そこで、構造・機能をリハビリテーションに特化した形に改善するため平成24年9月、並木第三小学校の土地から「横浜なみきりハビリテーション病院」（回復期リハビリテーション病棟96床、障害者病棟80床、医療療養病棟48床）として新たなスタートを切ることになったわけです。

平成27年2月には回復期リハビリテーション病棟132床、障害者病棟44床、医療療養病棟48床に。28年には回復期リハビリテーション病棟を拡充し、144床に増床。障害者病棟44床、医療療養病棟36床の計224床を数える地域有数の病床数を誇るリハビリテーション病院へと成長しました。

私どもは緑に囲まれる、恵まれた環境の中、患者様が穏やかに過ごして頂けるよう努めてきた結果、今年で7年目を迎える病院になります。まだまだ近隣病院に比べて日は浅いものの、グループ理念の「愛し愛される病院」を掲げ、患者様を思いやる気持ちだけは負けないよう、これまでも、これからも取り組んでまいります。

屏風ヶ浦病院 開院



昭和61年4月

回復期病棟132床・障害者病棟44床
療養病棟48床



平成27年2月



横浜なみきりハビリテーション病院 開院



平成24年9月

回復期病棟144床、障害者病棟44床
療養病棟36床



平成28年11月

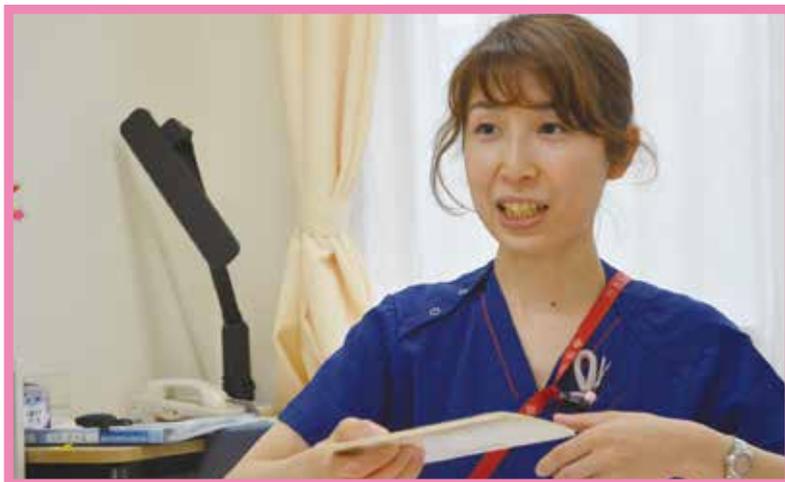




ひとりひとりの
スタッフが



愛し愛される
病院をめざして



特集 リハビリスタッフの1日

理学療法士

臼杵 航介さん



訪問リハビリは患者様の生活を見据えた手助けを行う。

Q 現在の業務内容を教えてください。

A 介護保険サービスでの訪問リハビリを担当しています。訪問リハビリは利用者様のご自宅に訪問し、日常生活動作を取り戻せるための手順やトレーニング、器具の紹介をさせて頂いています。



「患者様とコミュニケーションをとることを大事にしている」と臼杵さん。

Q 患者様との印象に残っているエピソードなどはありますか？

A 関わった患者様が初めて職場復帰できた、という方が印象に残っています。一人暮らしの方だったのですが、自宅内の動作、近くへの外出と少しずつステップを踏むことで復職に至ったことは大変うれしかったです。



患者様の目標に合わせたリハビリを行う。

Q 最後にこれから当院のサービスを受ける方にひとことお願いします。

A 在宅でのリハビリは病院でのものと異なり、障害があっても自分らしく生活が送れるよう私たちがサポートしていきます。「最近出かけるのが大変になってきた」という方はお早めに訪問リハビリを利用し、活動的な生活を取り戻してください!!

言語聴覚士

松本 宏美さん



入院されている方との訓練の様子。

Q 現在の業務内容を教えてください。

A 回復期病棟での言語聴覚に関する内容を担当しています。回復期病棟では病気などにより、言葉の発声や注意力、記憶力が低下してしまった方、それに食事の飲み込みが難しくなってしまった方を担当しています。



「今日はいい感じですね!」受け答えをする患者様がその気になっていく。

Q 対応しているとき、患者様はどんなことを話してくれますか。

A 言語聴覚士は個室でのリハビリを行うことが多く、本音を話してくれることが多いように感じます。これまでの人生や、時には昔の恋バナをしてくださることもあります!

私は趣味でプロレスを鑑賞するのですが、新人時代になかなか言葉を発することができない患者様に週刊プロレスを買ってきたことを話題にしたら「なんでこんな残念な子になっちゃったのかね」と突然偶発的にことばが出て2人で大笑いしました(笑)

終礼ではスタッフ間で明るく話し合いながら情報を共有する。



Q これから当院を利用される方へメッセージをどうぞ。

A 当院はチームとしての団結力が強いと感じています。信頼できる医療を目指して日々邁進しておりますのでご本人さま、そしてご家族もチームの一員として参加して頂ければと思います。

病院概要

名称	医療法人社団協友会 横浜なみきリハビリテーション病院
開設年月日	平成24年9月1日
所在地	横浜市金沢区並木2-8-1 (旧横浜市立並木第三小学校跡地)
床面積	敷地面積 16,214.35㎡ 延床面積 11,551.68㎡
病床数	224床 回復期リハビリテーション病棟 144床 障害者病棟 44床 医療療養病棟 36床
構造	R C (鉄筋コンクリート) 造4階建 A棟 (4階建) B棟 (3階建) C棟 (平屋一部2階)
医療機器	全身用マルチスライスCT(16列)、X線テレビ、 X線一般撮影装置、CR装置、PACS(画像保存通信システム)、 生化学自動分析装置、心電計、ポータブル装置、 超音波診断装置、超音波血流映像装置、骨塩定量装置、 電子内視鏡他、人口呼吸器 他
診療科	内科・神経内科・循環器内科・呼吸器内科・消化器内科・ 整形外科・リハビリテーション科・脳神経外科・皮膚科
診療時間	[月～金] 9:00～17:30 午後は予約診療となります。 [土] 9:00～13:00 ※診療科によって診療時間が異なります。
関連施設	リハビリテーション室 (722.21㎡) 通所リハビリテーション 訪問リハビリテーション 横浜なみき訪問看護ステーション

横浜なみきリハビリテーション病院へおこしの方へ



横浜なみきリハビリテーション病院 送迎車時刻表

京急富岡駅発 病院行					
時間	平日(月～土)				
8	36	44	52		
9	02	14	25	38	50
10	10	30	50		
11	10	30	50		
12	10	30	50		
13	05	20	35	50	
14	05	20	35	50	
15	15	35	55		
16	05	17	29	41	53
17	05	15	25	35	45 55
18	05	15	25	35	45 55
19	05	15	25	35	45 55
20	05				

病院発 京急富岡駅行					
時間	平日(月～土)				
8	36	44	54		
9	06	17	30	42	54
10	07	22	42		
11	02	22	42		
12	02	22	42	57	
13	12	27	42	57	
14	12	27	42		
15	07	27	47		
16	09	21	33	45	57
17	07	17	27	37	47 57
18	07	17	27	37	47 57
19	07	17	27	37	47 57
20	07	15			

*交通事情により、定刻通りの運行ができない場合があります。
*日曜日・祝日は運休です。

H28.4.1現在



あとがき

この度、横浜なみきリハビリテーション病院初の院外向け広報誌『あとり』が創刊となりました。昨今、医療業界でも様々な変化が求められています。私たちもニーズのひとつひとつに対応するべく、日々新しい技術を取り入れ続けています。ところで『あとり』という鳥、実は渡り鳥の一種でもあります。よりよい医療を目指し旅から旅へ。これからもなみきの道は続きます。

「頼り頼られる病院」

- 1、良質なリハビリテーションの提供で在宅復帰と生活の質向上を支援します。
- 2、専門職によるチーム医療の提供で満足度の高い医療提供を行います。
- 3、地域に開かれ、地域に支えられる存在になるように努めます。
- 4、職員が誇りと責任を持って働ける職場づくりを行います。

広報誌「あとり」2018. 11 vol.01

発行：横浜なみきリハビリテーション病院
編集：鈴木 佑一朗
〒236-0005
神奈川県横浜市金沢区並木2丁目8番1号
TEL. 045-788-0031 FAX. 045-788-0032
e-mail:hosp@ynrh.jp
(ホームページ) <http://www.ynrh.jp>